

# 令和2年度 杉並区立大宮中学校 経営計画

校長 関田 誠

## (1) 目指す学校像

生徒、保護者、地域、関係機関等が連携する『地域社会と共生する学校』として、「外部人材の活用」「生徒が力を尽くせる場の提供」「互いを認める人間関係づくり」「多様な学びへの対応」を視野に、以下の「目指す学校像」を掲げる。

○しなやかな心と体を鍛える学校 ○自己と向き合い学ぶ意欲を育てる学校 ○つながりに学び絆を深める学校

## (2) 教育目標 ○心身ともに健康な人 自ら学ぶ人 他を思いやる人

○すすんで学ぶ人 心とからだの健康な人 思いやりの気持ちのある人 (C組)

## (3) 今年度の取組目標【5つの力】 『8つのゼロ』目標

### 『コロナウイルスに罹患しない警戒力』の高揚…コロナ罹患ゼロ

○教室、校舎内の学習活動の新しい環境精美(3密=密閉(換気)・密集(多人数集合)・密接(近接会話)の注意)への意識を高めることで、教職員・生徒から感染者を出さない努力を続ける。

○特に感染の警戒を要する場面(給食、保健体育、音楽、英語、部活動等)の接触・飛沫感染の低減の工夫をおこなう。

○日頃から睡眠、栄養、適度な運動の良い習慣を心がけて、生徒の身体の免疫力を高める。

### 『授業を通じて学び続ける力』の習得…学習無気力生徒ゼロ

○『全員に基礎・基本の徹底』+『出来る生徒を飽きさせない発展的学習』を踏まえ生徒が能動的に学び楽しさの習得。

○授業ノート+αの工夫や適宜の宿題による、家庭での自主学習習慣の修得。

### 『優しい人間関係を構築する力』の醸成…いじめ見逃しゼロ・不登校ゼロ

○道徳授業の充実を図り、人権尊重、いじめや暴力のない温かい人間関係の醸成。

○通常学級と特別支援学級の交流学习を通して、相互理解の醸成。

○感動を伴う学校行事、生徒会活動により、成就感、達成感、自己有用感の醸成。

### 『自己の生き方を見出す挑戦する力』の育成…夢や目標なしゼロ

○体験活動・講演会や講話の充実を通して、望ましい職業観・勤労観の育成

○全ての生徒が将来の夢や目標を見出し生活する、将来設計力の育成

○読書習慣の形成で『学ぶ意味』を踏まえた社会貢献の心の育成

○『Society5.0社会』のしくみ(起業家精神、クラウドファンディング等)を踏まえた新たな生き方の育成

### 『良い習慣で自己管理する力』の定着…家庭学習未定着ゼロ、忘れ物未提出ゼロ

○『DOノート、連絡帳(C組)』に全校体制で取り組み、見通し・実行・振り返りの力の定着。

①備忘録として、『忘れ物・未提出ゼロ』の意識の定着。

②自主学習『計画・実行・振り返り』の定着。(例)学習時間 1年1h、2年2h、3年3h

③日記・メモ欄を活用させ、夢や目標の実現に向けた取り組みの定着。

### ◆生活指導、教育相談

○校内・校外のルール等を守らせ、安心・安全な生活を送れるようにする。

○相談しやすい体制づくりと保護者、関係機関との密な連携を図り迅速に対応し一層信頼関係を築く。

### ◆総合的な学習の時間

○各学年で「共生社会」の基盤作りのための取り組みを行い、課題を発見・探究・解決する力を育てる。

○起業家教育、クラウドファンディング等の社会の新しい仕組みを外部講師を招いて学ばせる。

### ◆地域社会と共生する学校

○地域行事(地域音楽交流会、地域清掃)の活動を通して、地域に貢献し役に立とうとする人間を育てる。

## (4) 目標達成のための具体的方策

### ①コロナ対応

○冷暖房の有無にかかわらず、普通・特別教室の窓、扉を開けて常に空気の流れを確保する。

○机を前後左右の間隔を最大限取り、原則として机を対面式に配置しない。教卓と前列生徒の距離を確保する。

○マスクを着用を推奨し、狭い空間(教室レベル)で大声で話さない。家庭科等で自作マスクの製作をおこなう。

○給食準備、食事時の飛沫の飛散に最大限配慮をして、対面給食を行わない。

○共有で触るドアノブや扉等の接触到気をつけ、30秒手洗いを励行し、アルコール消毒も並行して行わせる。

### ②学習指導

○授業を構造化する視点で、ねらいを明確にするとともに、「自分の考えをもつ」学習、「考えを共有(全体検討会)、

発表する」学習、「振り返り」学習、「繰り返し」学習を取り入れる。

○学び方について、授業の受け方、ノートの取り方について、家庭学習の予習復習の仕方等について指導を行う。

○習熟度別授業、少人数指導を適切に行い、個々の学習状況や課題を的確に把握し、個に応じた指導を行う。

○学習の定着度を把握して、公平かつ適切な評価評定を行い、説明責任を果たすことで保護者からの信頼を得る。

○ICT 機器、デジタル教材を効果的に活用することで、生徒の学習意欲や興味関心をより一層高める。

○国語科、学校司書等が連携し、読書一万ページ、読み聞かせを行い、読書の習慣、及び言語活動の充実を図る。

○保健体育科の授業において、筋力トレーニング、持久走等を行うことで体力向上を目指す。

○放課後学習教室、土曜日英語・プログラミング教室の学習を通して、学び残しやつまずき等の解消を図る。

○学力調査分析を行い全体の傾向及び生徒個々の学習定着度を把握し、具体的な支援及び指導方法を明確にする。

## ②生活指導、教育相談

○生徒の問題行動、教育相談等の事案は管理職に『報連絡』。保護者との連携を含めて迅速かつ組織的に取り組む。

○問題行動等に対して教員一人で抱え込まず、組織的に迅速に取り組む。関係諸機関等との連携も図る。

○いじめ等の事案は、「いじめ防止基本方針」の元、関係諸機関との連絡連携を含めて組織的な早期に解決を図る。

○学級での良い人間関係づくりを中心に、学級経営を充実させ、帰属意識を育て安心・安全な学級をつくる。

○食育、睡眠、健康教育、安全教育を進める中で、基本的な生活習慣を確立させる。

○毎月行う避難訓練や安全指導を通して、自然災害や交通事故等への安全対策や事故防止の指導を行う。

○情報モラルの指導を目的に、SNSルール、マナー等についてトラブルを避け適切に使用するように指導する。

## ③進路学習指導

○職場訪問、職場体験、職業講話などを充実させ、早期に健全な職業観の育成を図る。

○進路指導を通じて、自己の夢や志を探究する機会をつくり、い自己実現に向けて努力を継続できる生徒を育てる。

○関係機関と連携し積極的に活用し、「総合的な学習の時間」において各学年のテーマに基づき実践する。

## ④道徳教育、特別活動、人権教育等

○特別な教科「道徳」において、考える道徳、議論する道徳への転換を図る。

○いのちの教育月間、ふれあい月間において、主に道徳の時間において、命を大切にしようとする心を育てる。

○『DOノート』を活用・点検し、学校と家庭との情報の共有化及び家庭学習の習慣化、自学自習の確立を図る。

○生徒会活動、委員会活動、行事、部活動、地域と連携した活動等を通して、心と体を鍛えるとともに、社会を生き抜く力を持ったリーダーとしての資質、自治的活動への責任感、思いやりの心を育てる。

## ⑤特別支援学級、個に応じた指導、支援の必要な生徒への指導

○通常学級と特別支援学級、特別支援学級相互の交流及び奉仕活動等を行い、相互に相手の立場を尊重できる心を育てる。共に生きるインクルーシブ教育の視点で、教職員間で障害の理解について共通理解を深め実践する。

○特別な配慮を要する生徒に対して、保護者と連携して個別支援計画等を作成し、教員間で情報を共有化することでより一層個に応じた指導を行う。必要に応じて、関係諸機関と連携しケース会議を行い迅速に対応する。

## ⑥総合的な学習の時間

○各学年において共生教育を柱として「国際理解」、「社会の仕組み理解」「福祉」に取り組む。自己の課題を発見、探究する力を育てる。そのために、「ふれあいの家」、「杉並交流協会」、「弁護士会等」との連携事業を進める。

○施設、事業所と連携し、外部人材の多様な活用を図ることを通して、生き方を学ぶ学習、体験的学習を行う。

○プレゼンテーション技法として、様々な発表方法を学ぶとともに、その成果を発表する表現力を育成する。

## ⑦地域社会と共生する学校、開かれた学校

○地域教育連絡協議会、学校支援本部の活動を進め、奉仕活動等に取り組み、地域に貢献できる生徒を育てる。

○学校運営協議会を運営し、第三者評価、授業評価アンケート、教育調査について評価し、質の向上に資する。

○学校公開や保護者会、たより等の情報を適切に発信するとともに、保護者・地域からの要望等を把握し双方の理解協力を確保することで信頼関係を築く。

○地域清掃、地域音楽交流会、地域の行事、地域防災訓練、中学生レスキュー隊の活動、おまつり等の小中連携行事等に積極的に参加し、地域・社会の一員としての役割を認識させ、地域に貢献する態度を育む。

## (5) 教育公務員としての使命と自覚

○サービスの厳正 体罰ゼロ、個人情報の適切な管理、わいせつ行為及びセクハラ・パワハラゼロ宣言、飲酒に関わる服務事故防止、自家用車通勤及び交通事故、会計事故防止、ネットやPCの適正な利用、人権感覚を磨く。